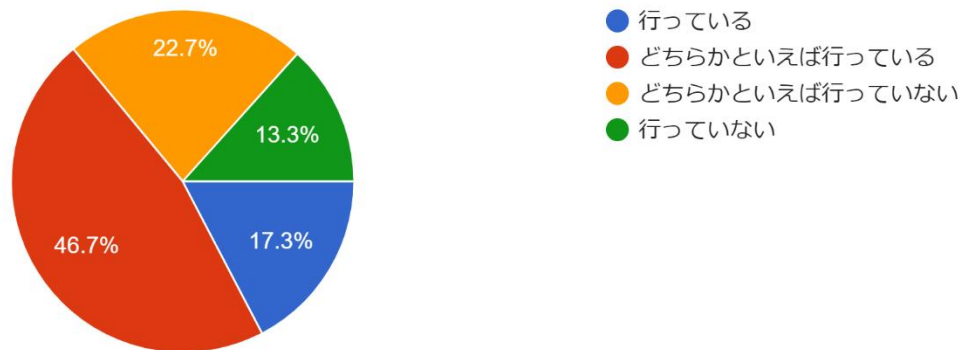


家庭科教育に関するアンケート【教員用】まとめ

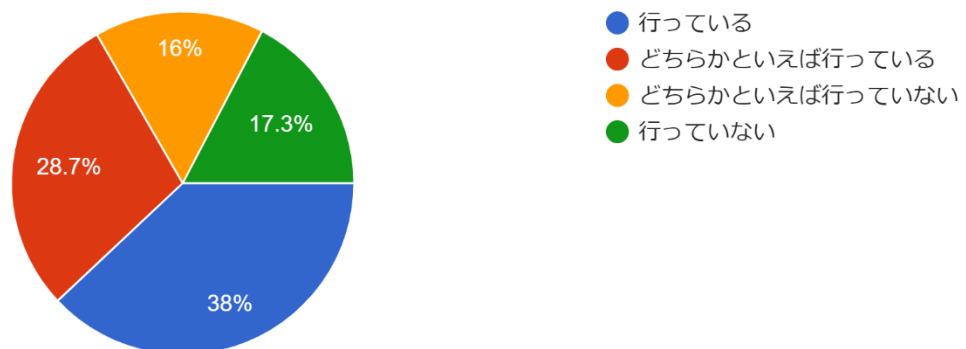
17. 中学校技術・家庭科の内容との系統性を考えて授業を行っていますか。

150 件の回答

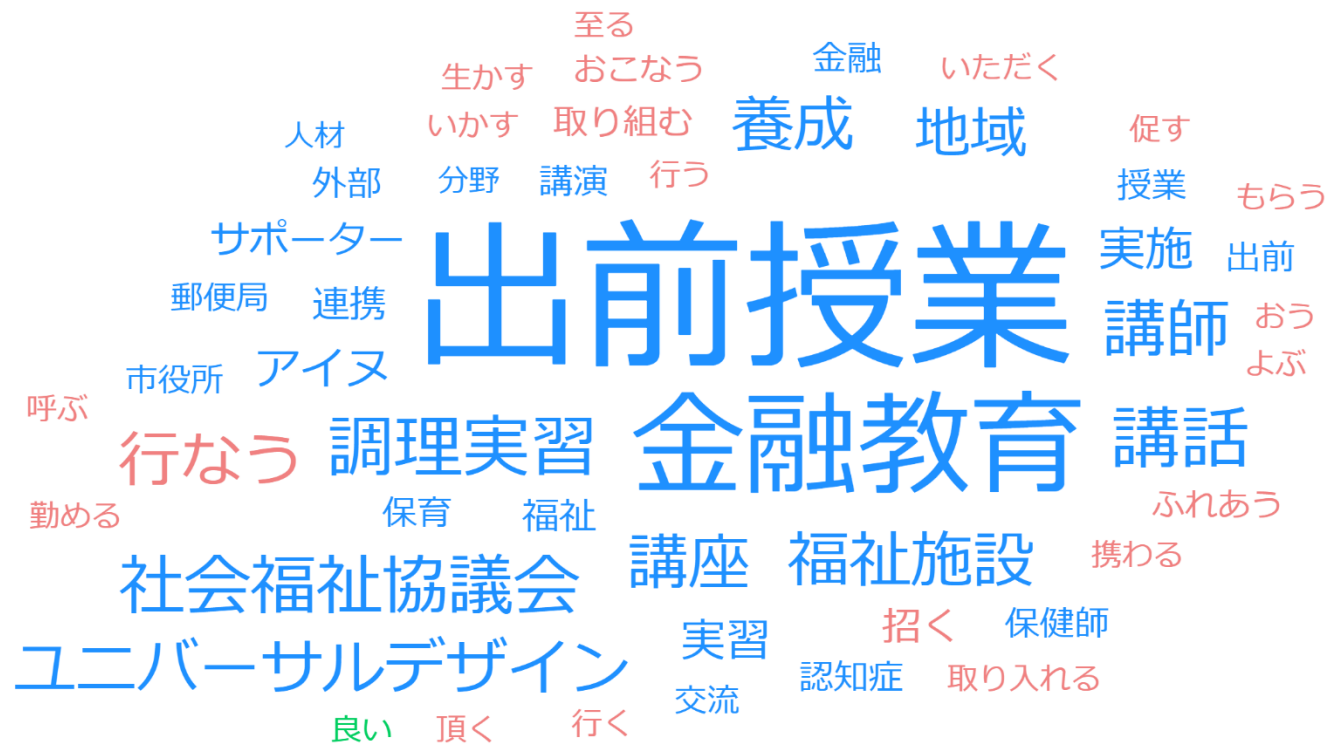


18. 地域の人材や資源を活用した授業を行っていますか。

150 件の回答



19. 上記の質問（18）で「行っている」「どちらかといえば行っている」と回答された方は、具体的にどのような取り組みを行っていますか。



(1) 多岐にわたる活動:

地域の企業、事業団体、専門職、ボランティアと連携し、多岐にわたる活動が実施されている。これには、地元の食材を使った調理実習、金融リテラシー講座、介護体験実習、認知症サポーター養成講座、ユニバーサルデザイン講座、性感染症や妊娠・出産に関する授業、ICT 活用、消費者教育、子どもの権利条約講話、農業体験、地域見学（ジオツアー）、高齢者との交流、障害福祉講座、赤ちゃんふれあい体験などが含まれる。

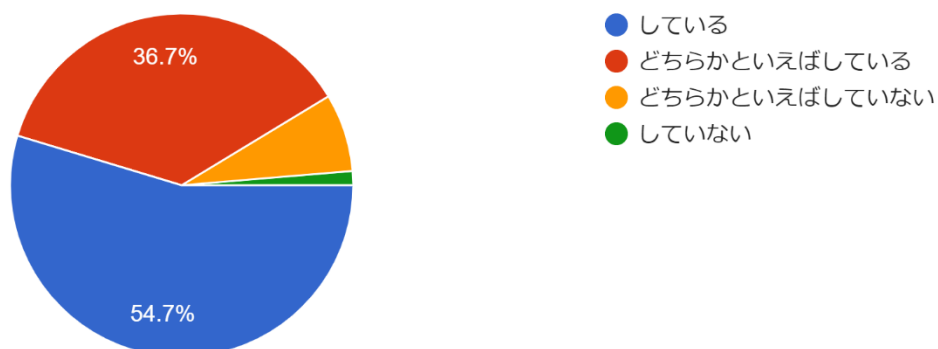
(2) コロナ禍の影響:

一部の活動はコロナ禍や校務の都合で実施できていないものがあり、地域の発展と福祉の向上に向けて多方面で努力している。コロナ禍により交流が制限され、今後の計画や実施については検討中とのコメントも多く、課題が残る。

(3) 地域連携:

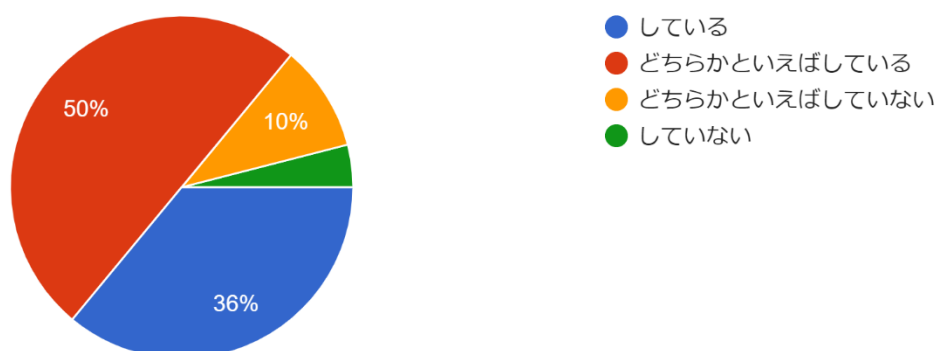
地域の企業や町の方からの講義、地場野菜や鹿肉の無償提供、地域包括支援センターや保育所との連携、外部講師による授業、認知症サポーターや栄養士との連携、金融リテラシー教育、健康・子ども課との協働、専門学校や地域の飲食店との連携、インターンシップ、地産地消、アイヌ文化、保育実習、介護講座、料理実習、地域の博物館との連携、特産物を使った調理実習など、それぞれの地域の特色を活かした様々な活動や連携が行われている。

20. 仕事と家庭の両立や、男女の協力などの男女共同参画への理解を深める授業や指導の工夫をしていますか。

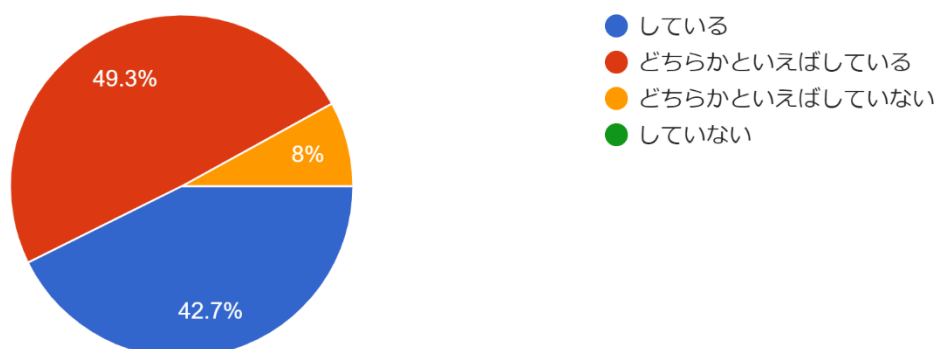


21. 家庭科で学習したことを、生徒が家庭で実践するような工夫をしていますか。

150 件の回答

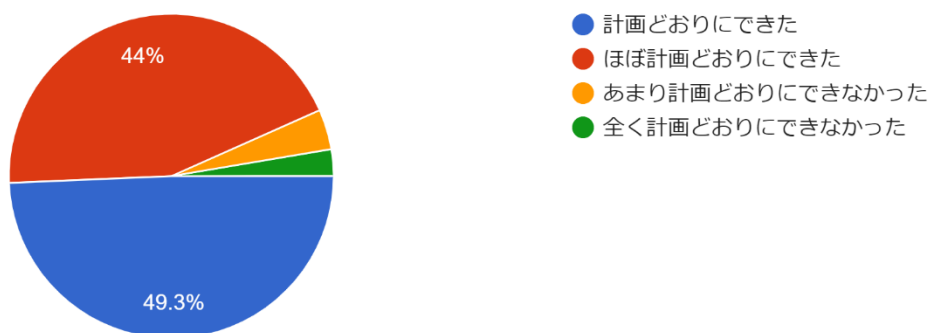


22. 今日的な諸課題（食品の安全性、環境、消費者問題、少子高齢化、SDGs など）について、生徒の理解を深めたり、実践を促すための工夫をしていますか。



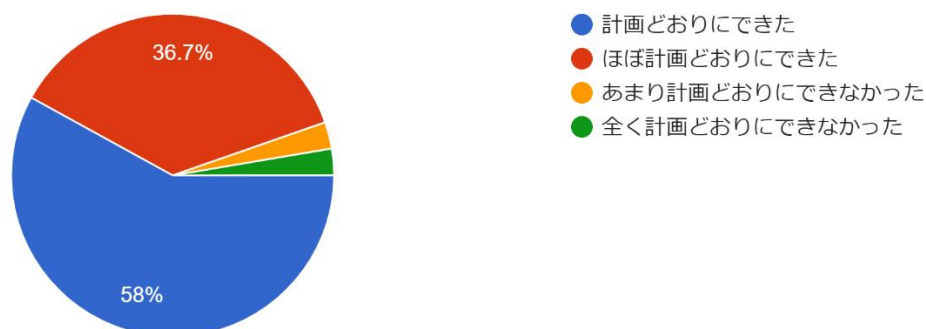
2 3. 今年度、調理実習を行うことができましたか。（予定含む）

150 件の回答

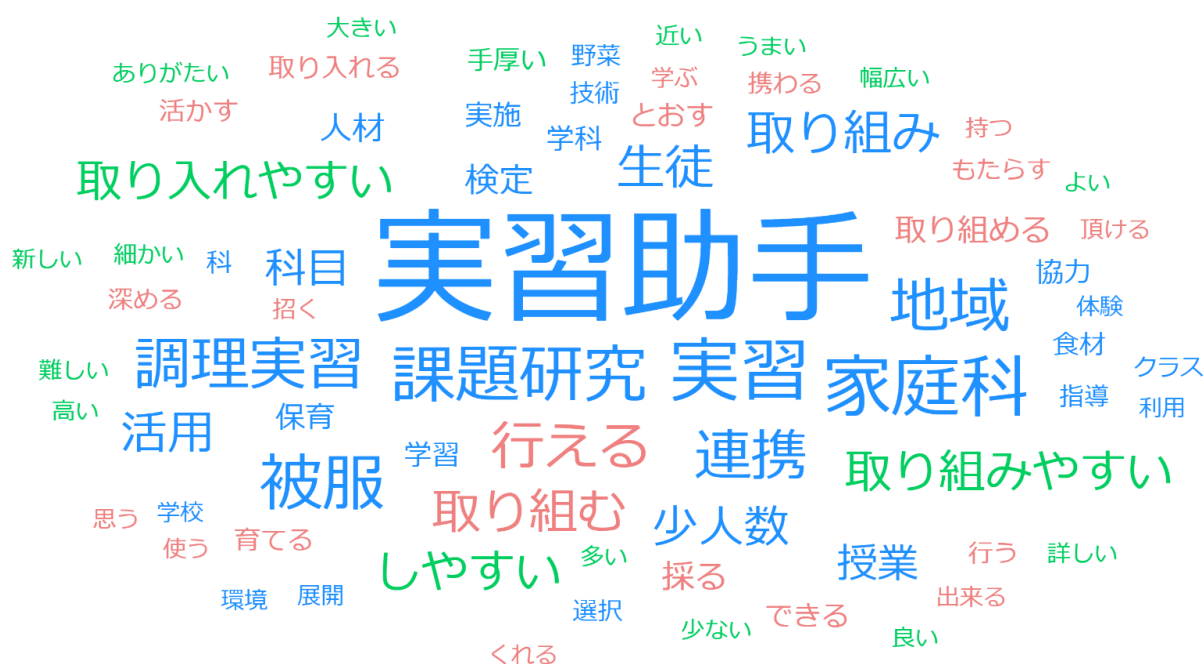


2 4. 今年度、被服実習を行うことができましたか。（予定含む）

150 件の回答



2 5. 家庭科を教えるにあたって、現在の学校だからこそできている取り組みがありましたら、ご記入ください。



学校は積極的に地域の資源を活用し、地域との連携を深めることで、より実践的な学びの場を生徒に提供している。これは、生徒にとって地域社会に貢献する意識を高め、将来的に地域社会に根付いた活動を展開するための基盤を築く役割を果たしていると考えられる。

学校は自然と環境に配慮した教育を行い、地域の自然資源を活用している。これは、生徒に対して、環境に優しい行動をとる意識を育むための大切な取り組みであると言える。

少人数制であることを活かし、1人1人に対するきめ細かな指導が行えていることが強調されている。これは、生徒一人一人の能力を最大限に引き出すために不可欠な要素であると考えられる。

学校はコロナ禍でも、オンラインツールや動画視聴など多様な手段を取り入れながら、授業や実習を進めている。これは、非常時でも柔軟に対応し、生徒の学びの機会を確保する姿勢が伺える。

先生 対応 活動 体験 できる 授業 すみません
 難しい 多い 踏み込む 取り入れる 老朽化 わかる ほしい
 上手い 見えにくい 取りにくい 教員 家庭 学ぶ 感じる
 考える 施設 教科 少ない 調理実習 教室
 すぎる 使いづらい 内容 本校 生徒 家庭科 激しい
 著しい 実習 調理 学力 被服 実施
 必要 大きい しにくい 差 通信制 設備 学習 取り扱う 問題
 しまう 小さい かねあう 科目 狭い 関わる 課題 かかる
 教える 低い いかす 望ましい 古い 悩む 取る 遠い
 強い とてつもない 望む 思う

生徒間の学力、技能、経験の差が大きく、これが一部の生徒へのサポート不足につながっている。特に、基本的な調理や被服技術についての事前知識が不足している生徒が多く、これは教育の初期段階での指導不足や家庭環境の影響を示している可能性がある。

(2) 施設と設備:

多くの学校で家庭科教室や調理室の老朽化、施設や設備の不十分または壊れている問題がある。これは、学校の予算や資源の不足が影響していると考えられる。

(3) 予算と資源:

市立高校は道立高校に比べて予算や環境整備で後れを取っており、これが生徒と教員のパフォーマンスに影響を与えています。特に、1人1台端末の利用が遅れていることは、ICTの活用やオンライン学習の進行に影響を与える可能性がある。

(4) 教員の負担:

家庭科の専門教員が不足しており、そのため教員は多忙な日々を送っている。さらに、家庭科に対する偏見や認識の不足、ICT活用のための研修時間の不足、評価方法の悩み、生徒の家庭環境の配慮など、様々な問題に対応する必要があることが、教員のストレスを増加させ、教育の質に影響を与える可能性がある。

(5) 家庭環境:

生徒の家庭環境が複雑であり、これが特別な配慮やサポートの必要性を生む要因となっている。また、家庭での基本的な知識や技能の不足が、学校での学習に影響を与える可能性がある。

(6) 教育内容の見直し:

生徒のニーズや社会の変化に対応した教育内容の見直しは、進学校における家庭科の位置づけや動機づけ、知的好奇心を刺激しながら社会とのつながりを意識させることにつながる重要な要素と考えられる。

総合的に考えると、これらの問題は相互に関連しており、一つの問題の解決が他の問題の解決にも寄与する可能性がある。たとえば、予算と資源の問題が解決されれば、施設と設備の問題や教員の負担も軽減される可能性がある。また、教育内容の見直しや教員の研修を通じて、学力差の問題や家庭環境の問題にも対応できる可能性がある。このように、各問題に対して総合的なアプローチを取ることが、最も効果的な解決策となりえる。